

市場小6年
太田純菜さん



お母さんへの気持ち

——主な内容——

大好き」この言葉を伝えたい人がいる。それはお母さん。けんかしたり、おこられたり、笑ったり、はずかしくて、いつも一緒にいるお母さんにどうしても伝えられない気持ち。いつかは伝えたいと思う気持ち。お母さんはわたしを産んでくれた。ご飯をつくってくれた。洗濯物をしてくれた。勉強を教えてくれた。お母さんは毎日たくさんの愛情をくれた。わたしをここまで大きく育ててくれた。そんなお母さんがわたしは大好き。わたしには、まだいっぱい伝えたい気持ちがある。でも、その中で1番、一番伝えたい気持ち、それは「大好き」そして「ありがとう」の言葉。わたしの未来は、どうなっているのかな。働いているのかな。未来に不安はあるけど、20歳くらいになったら一人暮らしをして家から離れて暮らすかもしれない。だから一緒に暮らしている今のうちに返返ししようかな。わたしのお母さんは世界に一人だけ。そんなお母さんが本当に大好き。今はけんかしたりして、ときどきお母さんがきらいになったときもあったけど「大好き」「ありがとう」。そんな気持ちを本当に、お母さんに一番伝えたい。お母さんが一生懸命に働いてかせいでお給料でわたしはご飯を食べさせてもらっている。修学旅行や自然教室の写真代や、修学旅行費も、お母さんからもらっている。毎日わたしたちのために朝早く起きてご飯を作ってくれる。あまり睡眠時間がとれないのに、ありがとう。本当に産んでくれてありがとう。大好きなお母さんからもらった命、大切にしたい。

伊方小6年
帯山未来さん



わたしをかえてくれた友達

——主な内容——

みなさん、みなさんは友だちがいいますか。いると答えたあなたには、どんな友だちがいますか。わたしは、自分をかえてくれた仲間たちです。わたしは母の仕事の都合で今の学校に転校してきました。前の学校でイジメられていたので不安でしたが、新しい友だちができました。何か月かたった休みの日、一緒に遊んでいると、仲のいい友だちが前のほうでヒソヒソ話ををはじめました。次の日わたしは一人ぼっちになってしまいました。それを見た先生が、何があったのか声をかけてくれました。気まずかったわたしたちは、話し合いをすることになり、わたしの言い方が友だちをきずつけていることを知りました。わたしは、この友だちとこれからずっと仲間になりたいので自分の言い方に気をつけようと思いました。みなさん、みなさんは、本当の友だちとは何だと思いますか。わたしは、今の友だちのように本音を言ったりケンカをしても仲なおりのことが本当の友だちだと思うのです。わたしは、イジメられている人に言いたいです。「もし、死にたいと思っているなら、死なないうで下さい」わたしのように、こんな出合いがあるかもしれません。仲間がわたしをかえてくれたようにあなたやあなたをイジメている人をかえてくれるかもしれないのです。命は一つしかないのです。だから、わたしは、自分がつらかったことや仲間に出会えた喜びを一人でも多くの人に伝えたい。イジメについて考えてほしいです。みなさん、イジメをぜったいにしないで下さい。そして友だちを大切にしてください。

上野小6年
田口大成さん



「できることから始めよう」

——主な内容——

みなさんは、エコキャップの活動をしていますか。ペットボトルのキャップで世界の子どもたちにワクチンを届けるNPOの活動です。ぼくはそのキャップを集めています。今では家族や親せきも協力してくれるようになり、これまで500個以上集めました。また、上野小学校では一人でも多くの命を助けようとしてみんなが協力して、1年たらずで20kgも集まりました。これはみんなが一人でも多くの命を助けようとして自分の力をしようとして心がけたからこそできたことで、途上国の多くの子どもを助けることができ、とてもうれしく思います。ぼく一人の力では小さなことかもしれないけど、命の大切さを考えて何かをすることは大切だと思います。一人ひとりの力では小さくても学校や地域の人々でなにかをすれば大きな活動にかかわる。だからまず、自分のできることを小さくてもいいのですがして活動をする。これがぼくがエコキャップを集める活動で学んだことです。世界には、ワクチンを打てない人も、食べることでできない人もたくさんいます。一人ひとりの心よっとした心がけや関心を持つことで世界は変わります。まだまだ、ぼくの知らない人の役に立てるボランティア活動があると思います。自分を大切にするように人にも親切にできる、そんなボランティア活動が当たり前になるようにぼくはなりたいです。みなさん一人ひとりも、小さなことでもいいのでからできることから始めてみませんか。

最優秀賞
弁城小6年
香月海優さん



大好きな私の町

——主な内容——

わたしはふるさとの迫地域が大好きです。それは毎朝、学校に来る時、コスモスがいっぱい咲いている、ゴミ一つ落ちていないからです。この素晴らしい迫地域も以前からそうだったわけではありません。通学路にはゴミがたくさん落ちていたので「愛郷作業」として、弁城小の保護者が登校する子どもと一緒にゴミを拾っていました。しかし作業の翌日、また道路や歩道にゴミが散らかっていました。一緒に登校していたみんなも気づいたようで「じゃあ、愛郷作業の日じゃなく、学校に行くまでゴミを拾って行こうか」と言うと、みんなの手からこぼれそうならぬゴミがあったのですが、2・3か月後はみんながゴミを拾わなくてもよいようになり、楽しくおしゃべりをしながら学校に行けるようになりました。みんなのあいさつや笑い声がすごく大きくなったように感じます。今では学校への通学路も全然ゴミがなく、楽しく学校に行っています。みんなの努力と協力がきれいな町になり、笑顔や笑い声があふれたすてきな迫地域になったのだと思います。これからもゴミのない笑顔であふれるように気をつけていきたいです。愛郷作業の愛郷とはふるさとを愛するということです。自然がいっぱいのふるさと迫、そして弁城、福智町をいつまでも愛し自慢できるふるさとにするのがわたしの夢、願いです。みなさんも一緒にきれいな町づくりをしていきましょう。

金田小6年
天江由莉奈さん



いつまでも戦争のない平和な世界を

——主な内容——

小さなことで腹を立てず、よく考え、落ち着いて行動します。友だちが悲しんだり、いやな気持ちになっていないか、思いやります。いろいろな意見の人がいても、お互いを大切に、助け合います。お互いの考えが合わないときには、話し合いで解決します。わたしたちは今日から、みんなで、思い合い、助け合い、話し合い、いろいろな国の人たちが明るく笑って過ごせる、平和な世界をつくるために全力を尽くします。これは、わたしたち金田小6年生が、長崎修学旅行の平和集会で建てた平和の誓いです。「今、戦争で原爆が投下されたら」家族が、友だちが、たくさんの人々が、当たり前前の生活が、全てが失われると思うととても怖くてなりません。長崎に原爆が投下され、たくさんの人々が犠牲になりました。64年前にこの日本で実際に起きたことです。他の国では、核実験や戦争が今も行われている所があります。「平和な世界」を目指していくためにできることは何か。わたしは、これらのことをとおして、平和について深く考えました。わたしたちは毎日学校に行き、友だちと学習したり、遊んだりという日常を当たり前のように過ごしています。しかし当時は、当たり前前のことではなかったのです。わたしは、戦争について本や資料からだけではなく実際に目で見て体で感じる事ができました。戦争は、絶対にしてはいけません。けんかをなくし、話し合いをして解決します。友だちを大切にします。いつまでも戦争のない平和な世界をつくっていきましょう。

第4回 福智町わたしの主張大会

主催 福智町青少年育成町民会議

次代を担う福智町の子どもたちが、社会の動きや身近なことなどにに対して感じた自分の心を素直に表現する「わたしの主張大会」が、12月13日に公民館金田分館で開催されました。この大会で町内8校からの代表者たちが、飾らずありのままを胸を張って主張。それぞれ思いをまっすぐに、参加者の心へと響かせました。ここで、会場での発表内容から、子どもたちの考えや希望にふれてみましょう。



今大会の最優秀賞は弁城小6年の香月海優さんでした。香月さんは、2月6日(日)10時から福智町地域交流センターで開催される「わたしの主張町地区大会」で福智町を代表して発表する予定です。

力強くさわやかに